2023年度「事故速報」(対象：幼児、小学生、中学生、高校生、一般)

(注) その月に報告のあった事故をまとめた速報です。

2023.10.30現在

No	発生日	報告日	学年等	性別	経験年数	病名	重大 準重大	場所 状況	技名等	概 要	事故防止の指針
1	5/13	5/15	高3	男	3年1ヶ月	脳しんとう	—	剣道場 試合	払巻込 掛けた	右の払巻込を掛けたところ、右側から倒れて、右側頭部を強打した。	年度初めの重大事故防止の啓発文に示したように、長期のコロナ禍の影響により頭部打撲の事故が増加していることや新年度に入った5月～7月が重大事故の最も発生しやすい時期であることなどを踏まえて、基礎体力の向上、受け身の習熟などの事故防止の対策を一層徹底すること。
2	5/7	5/25	高1	男	5年2ヶ月	急性硬膜下血腫	準重大事故	高校柔道場	小外刈り	立技乱取り中、ケンカ四つの組手から、相手に背中を抱かれ小外刈りのような形で後ろに投げられ後頭部を畳に打ち受傷した。	5月に入って脳しんとう及び急性硬膜下血腫の準重大事故にあたる頭部打撲事故が報告されている。今後、試合等が増える時期なので一層の事故防止対策の徹底が必要である。
3	5/19	5/25	高1	男	3年2ヶ月	脳しんとう	—	県営武道館 大道場	背負投	相手から低い右背負投をかけられ投げられた際、右側頭部を畳に打ちつけた。	
4	7/16	10/25	一般	男	12年3ヶ月	第2頸椎骨折	—	市民体育館	袖釣込腰	試合中、両袖を持たれて袖釣込腰を掛けられ、頭部から畳に落ち、頸部を負傷した。	頭部頸部の打撲事故が多数報告されている。試合においても無理な体勢で技をかけないことが重要である。夏休みを迎えて合宿や練習試合等が増える時期なので一層の事故防止対策の徹底が必要である。
5	7/23	8/9	小6	女	5年	脳しんとう	—	市武道館 練習試合	大内刈	大内刈で浴びせ倒され側頭部を打ち受傷した。	上半期を過ぎて脳しんとう等の頭部事故が多数報告されている。引き続き受け身の習熟とともに試合や練習においても無理な体勢で技をかけないなどの事故防止対策の徹底が必要である。
6	8/20	8/31	中2	男	7年1ヶ月	脳しんとう	—	体育館	払い腰	大会において腰を持った払い腰(大腰のような)を掛けられ、背中から畳に着いたが、勢いで後頭部を打った。	
7	7/8	9/4	中3	女	6年9ヶ月	頸椎脱臼	—	体育館	体落し	団体戦で重量級の相手に体落としをかけた際に、相手に後ろから押されて頸部を前屈した状態で後頭部から畳に突っ込み、さらに相手の体重が後ろから加わり受傷した。	試合中の頸部事故が続いて発生している。いずれも受傷者が前傾姿勢で首が屈曲した状態で頸椎、頸髄を損傷している。一件は感覚や運動のマヒのある重大事故である。前傾姿勢で技をかけないこと、相手の首が屈曲するような状態で技をかけない等の指導を徹底する。また、大会本部として試合中にこうした事故が多発していることへの注意喚起も必要である。
8	9/10	9/15	大2	男		頸髄損傷 頸椎脱臼	重大	県立武道館	隅返し	前傾姿勢となっている状態で隅返しを掛けられた。その時に頭部が相手の脇の下に入り込んだ状態となり、首が屈曲した状況となり受傷した。	
9	9/16	9/17	中2	男	1年6ヶ月	頸髄損傷	—	市武道館	払い腰	試合中に払い腰をかけ、そのまま真っ直ぐに畳に前頭部をぶつけた。	
10	9/12	9/22	高2	男	約12年	脳しんとう	—	県立武道館	大外刈	試合中、相四つ(左組)から大外刈を掛けられて後頭部を強打した。	今年度も脳しんとうによる事故が多数報告されている。一件は急性硬膜下血腫の準重大事故である。頭部事故が多発していることを踏まえて、日頃の練習から受け身の習熟及び基礎体力や筋力の向上が重要である。また、練習環境の安全確認等も徹底する。
11	9/24	9/27	中2	男	2年10ヶ月	脳しんとう	—	柔道場	巴投げ	大会試合中、巴投げで投げられ、右側頭部を打った。	
12	7/21	10/3	高2	女	4年6ヶ月	頭部外傷 脳しんとう	—	柔道場	衝突	柔道場でウォーミングアップとして端から端までのダッシュ練習をしていた。先行していた受傷者がターンして戻ろうとしたときに相手生徒に正面から衝突した。	
13	10/21	10/26	高2	女	4年1ヶ月	頸髄損傷 頸髄ショックの疑い	—	市民体育館	大内刈	試合開始10秒くらい、奥襟を取られ大内刈を掛けられ、相手に覆いかぶされながら投げられた際、上半身と下半身が捻じれて倒れ、起き上がれなかった。	今年度は頭部事故とともに頸部事故も多数報告されている。一件は頸髄損傷による四肢麻痺の重大事故である。頸部事故が多発していることを踏まえて、前傾姿勢で技をかけないこと、相手の首が屈曲するような状態で技をかけないこと、ヘッドディフェンスをしないこと等の指導を徹底する。また、大会本部として試合中にこうした事故が多発していることへの注意喚起も必要である。
14	10/20	10/25	高1	男	10年11ヶ月	頸椎損傷	—	市民体育館	内股	試合開始30秒、相手選手が内股をかけた。受傷者は堪えたがそのまま頭部から畳に突っ込み受傷した。	今年度6件目の頸部事故の報告である。2件は技をかけた時、4件が投げられた時に発生している。頸部事故が多発していることを踏まえて、前傾姿勢で技をかけないこと、相手の首が屈曲するような状態で技をかけないこと、ヘッドディフェンスをしないこと等の指導を徹底する。また、大会本部として試合中にこうした事故が多発していることへの注意喚起も必要である。

【全柔連見舞金制度】

全柔連は、見舞金制度を設けており、その費用(2023年度から500円)は登録時に支払ってもらっています。一部には、大会に出場しない、昇段しない等の理由で登録しない競技者も見受けられます。

柔道を安心して楽しむために、柔道をやられる人は全員、登録(見舞金制度加入)をお願いいたします。